

温室効果ガス排出量の推計(現状対策ケース)

資料4 - 1

温室効果ガス別	基準年		2002年	2003年 (速報)	現状対策ケース (2010年度)
	万t-CO2		基準年 総排出量比	基準年 総排出量比	
エネルギー起源CO2	104,833		+10.2%	+10.9%	+5.4%
非エネルギー起源CO2、 CH4、N2O	13,888		0.9%	1.0%	0.9% ~ 0.4%
非エネCO2	7,394		0.1%	0.1%	+0.1% ~ +0.1%
CH4	2,474		0.4%	0.4%	0.6% ~ 0.3%
N2O	4,019		0.4%	0.4%	0.5% ~ 0.2%
代替フロン等3ガス	4,974		1.7%	1.9%	+1.4%
HFC	2,023		0.6%	0.6%	+2.1%
PFC	1,259		0.2%	0.3%	0.3%
SF6	1,692		0.9%	1.0%	0.4%
総排出量	123,695		+7.6%	+8.0%	+5.9% ~ +6.4%

エネルギー起源CO2排出量の内訳

部門別	基準年		2002年	2003年 (速報)	現状対策ケース (2010年度)
	万t-CO2		基準年比	基準年比	
エネルギー起源CO2	104,833				
産業部門	47,608		(2%)	(0%)	(5.3%)
運輸部門	21,721		(+20%)	(+19%)	(+20%)
家庭及び業務その他	27,300		(+33%)	(+33%)	(+22%)
家庭部門	12,915		(+29%)	(+29%)	(+20%)
業務その他部門	14,385		(+37%)	(+37%)	(+24%)

中央環境審議会においては、中間の取りまとめ後も大綱の改定が行われるまでの残された間に、～の温室効果ガス排出量の精査を進めることとしており、上記の数字は現時点での環境省による暫定値である。